

安心安全の未来創ろう

第一部「未来づくりの根幹を考える」は、「未来づくりのパートナーを考える」から「未来を脅かす危険を考える」へと議論を進めます。

原発再稼働

鳥取県の未来を一番脅かしているのは原発とされています。島根原発は境港市までは17キロしかありません。

川内原発の再稼働に鹿児島県と薩摩川内市が同意し、菅官房長官は「再稼働に必要な地元同意の範囲は川内原発が基本」と記者会見で話しました。平井知事は「田中経産省政務官は『地元同意は地域の実情に合わせ対応する』と言われた。川内原発が全国規格にはな



壇上での代表質問

らない」との見解を議会で示されましたが、「本当にそうか」と聞くと、「幹部職員を資源エネルギー庁に派遣して確認したが、基本的に変わりはない。周辺も含めて意見を聞くプロセスの確立を求めていく」と答えられました。

知事が中電の荻田社長に

元気な未来を創ろう

第一部は「元気な未来を創ろう」です。活況に沸き、ゆとりある暮らしができる鳥取を創るための提言をしました。

フードバレー

世界中でベストセラーになっている経済学者ピケティの「21世紀の資本論」には、経済格差が拡大して問題になる一方、二つの大戦の復興期は経済成長で格差が縮小したと記載されている

担当職員の人件費等の財政支援を求めたことが「島根原発再稼働とセット」と報道された件は、知事から「再稼働に直結しない」とお聞きしていましたので再度確

地震対策

県の地震想定では、犠牲者の75%は火災、22%が建物倒壊で生じ、東日本大震災や阪神大震災では火事原因の多くが電気でした。「感震ブレイカー」設置を助成

認すると、知事は「当惑している。再稼働は安全を第一に、周辺地域の意見を聞いて判断すべきで、別次元の問題だ」と明確に否定されました。

し、進まない住宅の耐震改修支援を充実すべきでは」と求めると、「感震ブレイカー」設置は市町村や県民に呼びかけていく。耐震改修は負担が大きいため、簡便な工法の開発を含めて取り組む」と回答されました。



答弁する平井知事

ると紹介。私が提案した科学の力で農林水産物を高付



自席からの追求質問

加価値化するフードバレー構想に1億円を超える予算を付けていただいたことに感謝を申し上げた上で、「構想は中小企業も取り組み、創業や化粧品へ裾野を広げれば新産業の創造になる」

と、更なる支援を求めました。知事は「最近はおもしろい研究が出てきている。未来型の産業として創業も視野に入りたい」と前向きな答弁でした。

地元企業支援

「地元企業の商品開発、販路拡大、資金繰り、人材育成の各段階できめ細かに支援すべきでは」と質すと、「各ステージを追った支援をやっていく。補助金制度等は使い易くなるよう柔軟に検討したい」と応じていただきました。

会派視察で海士町を訪れたことを話し、「海士町は都会の若者の挑戦に資金提供し、町内の雇用創造へ繋がっている。この発想の転換は面白い。鳥取県でも取り組んでみては」と提案すると、「現在のフレームワークではこういうビジネスを育てていくのは難しい。部局間連携で新しいスキームを検討して参りたい」と知事は話されました。